

国際スケート連盟コミュニケーション第 1504 号

シングルおよびペア・スケートティング

I. 第 52 回 ISU 総会で承認された一般規程、特別規程、技術規程の変更

1. ISU コミュニケーション第 1445 号および 1459 号で導入された主な変更点を、規程 2008 に含めた。
2. ジュニア男子のショート・プログラム: ソロ・ジャンプとして、ダブルまたはトリプル・アクセル・パウルゼンを認める。
3. ペアのショート・プログラムのスパイラル・シークェンス: “常に少なくともパートナーのいずれかがスパイラル姿勢をとっていないなければならない”という規定を削除する。
4. すべてのカテゴリーのフリー・スケートティングのウェル・バランスを1つ減らし、以下とする;
 - a) シニア男子およびシニア女子: 最大 3 つのスピンの、そのうちの 1 つはスピン・コンビネーション、1 つはフライング・スピン、1 つは 1 種類の姿勢のみのスピン;
 - b) ジュニア男子: 最大 1 つのステップ・シークェンス;
 - c) ジュニア女子: 最大 1 つのステップ・シークェンス; スパイラル・シークェンスは必要ない;
 - d) シニアおよびジュニア・ペア:
最大1つのステップ・シークェンス; スパイラル・シークェンスは必要ない(2008-2009 シーズン、2010-2011 シーズン);
最大1つのスパイラル・シークェンス; ステップ・シークェンスは必要ない(2009-2010 シーズン)。
5. アクセル型のジャンプが任意の他のジャンプに直接(ステップ、ターン、ホップ、マズルカ、表外ジャンプを挟まずに)続けて行われた場合、この一連のジャンプは、ジャンプ・シークェンスとしてみなされる。
6. シニア・ペアのウェル・バランス・プログラム:
3 つのリフトおよび 1 つのツイスト・リフト、あるいは 2 つのリフトおよび 2 つのツイスト・リフトのいずれでも行うことができる。2 つ目のツイスト・リフトを実施する場合には、1 つ目のツイスト・リフトと異なる踏み切りのものとすること。
7. ペアのフリー・スケートティングにおいて、プログラムの後半部分に開始されたスロウ・ジャンプ、ジャンプ要素、リフトおよびツイスト・リフトには、特別係数 1.1 を乗ずる。
8. リフトでは、男子の回転で認められているのは 3 回転半(3 1/2)であるが、数え始めは女子が氷を離れた時であり、数え終わりは男子が腕を完全に伸ばした後に腕(片腕、両腕)を曲げ始めた時であり、結果として女子が下降し始めた時である。
9. 各競技者/ペアは、名前を呼び出されてから 1 分以内に演技を開始しなければならない。開始できない場合には、その競技者/ペアは棄権したものとみなされる。
10. 負傷、医学上の問題、器具等による中断から再開を行う場合には、スケーターには演技を継続する前に最長 3 分間が与えられる。この場合、レフェリーにより 2.0 の減点が適用される。
11. 再滑走がスケーターの責任によらない例外的な状況(競技場の問題、観客の妨害等)では、レフェリーは減点を適用しない。
12. グループの最初の滑走者/組がウォームアップ中に負傷し、治療に要するため演技開始までの時間が足りない場合には、レフェリーはそのスケーター/ペアに対して滑走呼び出しまでに追加で最長 3 分間を与えることができる。
13. すべての ISU フィギュア・スケートティング選手権大会、ISU イベントおよび他のすべてのフィギュア・スケートティング競技会において、競技者、コーチ、チーム役員、サービス関係者等は、「キス・アンド・クライ」エリア、「テレビジョン・インタビュー」エリアを含めたオフ・アイスおよび公式練習中に限り、商品、サービスまたは企業のトレード・マークを 2 つまで、それぞれ最大 60 cm² のサイズで、自分自身、その衣装および/または用具に表示してよい。衣服の供給者のトレード・マークも、最大 30 cm² のサイズで 1 つ表示してよい。
14. レフェリー・レポートおよびテクニカル・コントローラー・レポートは、ISU ガイドラインに従い、2 つの別個の書類が作成される。

15. 各アセスメントは、当該シーズンに加えて2シーズンの間有効であり、その有効期間内は、アセスメントの蓄積に数えられる。
16. 国際ジャッジとしての初回の任命には、申請された候補者は申請に先立つ 24 ヶ月間に ISU ジャッジ・セミナーに参加していなければならない。このセミナーには、トライアル・ジャッジングが含まれていなければならない、候補者のジャッジングは許容できるものでなければならない。
17. ISU テクニカル・スペシャリスト、ISU データ/リプレイ・オペレーターが、再申請および再任命されるためには、当該者は、再申請に先立つ 12 ヶ月間(テクニカル・スペシャリスト)あるいは 24 ヶ月(データ/リプレイ・オペレーター)に少なくとも 1 回、ISU イベントまたはオリンピック冬季大会または国際競技会またはナショナル/地区/地域選手権大会(ナショナル/地区/地域選手権大会の場合には、当該者が務めたイベントは本規定のために ISU により認められなければならない)において、それぞれの資格で務めていなければならない。
 ※訳注 本項に認められる日本国内の競技会(ナショナル/地区/地域選手権大会)については現時点では未定である。

II. ナショナル/地区/地域選手権大会が ISU テクニカル・スペシャリストおよび ISU データ/リプレイ・オペレーターの再任命および再申請に適合しているものとして認定されるための要件

1. 当該競技会が、少なくとも 8 人のシングル・スケーターまたは 5 組のペアが参加するシニアまたはジュニアの競技会である。
2. レフェリーは ISU レフェリーまたは国際レフェリーでなくてはならず、ISU 事務局に標準の書式のレフェリー・レポートを送付しなくてはならない。
3. テクニカル・コントローラーは ISU テクニカル・コントローラーまたは国際テクニカル・コントローラーでなくてはならず、ISU 事務局に標準の書式のテクニカル・コントローラー・レポートを送付しなくてはならない。
4. イベントでのテクニカル・スペシャリストに関する業務は、少なくとも容認できる評価でなければならない。

III. レベルの特徴および価値尺度(SOV)についての明確化

2008-2009 シーズンにおけるレベル特徴および価値尺度(SOV)は、ISU コミュニケーション第 1494 号で発表された。以下、明確化を記す。

1. シングルの“すべてのスピンの特徴項目 2)は、以下のようにみなす：
 - 2) 基本姿勢での別の難しいバリエーション
 - 1 姿勢の足換え無しのスピンのおよびフライング・スピン – 前項の難しいバリエーションとは異なるもの
 - それ以外の全てのスピン – 前項の難しいバリエーションとは異なる足および/または異なる姿勢で行うもの
2. ペアの“ソロ・スピン”の特徴項目 2)は、以下のようにみなす：
 - 2) 基本姿勢での別の難しいバリエーション
 - 1 姿勢の足換え無しのスピンのおよびフライング・スピン – 前項の難しいバリエーションとは異なるもの
 - それ以外の全てのスピン – 前項の難しいバリエーションとは異なる足および/または異なる姿勢で行うもの
3. ペア・フリー・スケートイングのソロ・スピンにおいて、スケーターが 2 回目の足換えと同時に回転方向を変更した場合、レベル特徴は 1 つのみ与えられる。
4. シングルおよびペアのスパイラル・シークェンスにおいて、“スパイラル姿勢を(中断せずに) 6 秒間以上保持する”特徴が与えられるのは、スケーターの姿勢およびバリエーションに変更が無い場合のみである。
5. 第 52 回 ISU 総会の決定にもとづき、シングルおよびペアにおいて、スピンのシット姿勢の定義が次のように修正された：“尻の最下部がスケートイング・レグの膝の最上部の高さを超えず、スケートイング・レグの大腿部が氷面に平行”
6. シングルおよびペアのステップ・シークェンス中に片足で行われるターンおよびステップを要求しているのは、ステップ・シークェンスの中では(可能な限り)両足滑走を避けることを意味する。
7. SOV 表の中で、ダブル・アクセルのマイナス GOE の数的価値はそれぞれ、-0.8, -1.6, -2.5 である。(印刷ミス訂正)

IV. フリップ・ジャンプとルッツ・ジャンプの評価の明確化

1. 重度の間違った踏み切りエッジ(間違ったエッジが長い、正しいエッジが全く無い)の場合、テクニカル・パネルは” e ” (edge: エッジ) 記号を用いる; この場合、ジャッジは GOE で-1 から-3 の減点を行い、GOE は必ずマイナスでなければならない。
2. 間違った踏み切りエッジが短い、あるいは、間違った踏み切りエッジがそれほど明らかではない場合、テクニカル・パネルは” ! ” (attention: 注意) 記号を用いる; この場合、GOE の決定は、各ジャッジの裁量による。

ミラノ

2008年6月30日

ローザンヌ

ISU 会長 **Ottavio Cinquanta**

専務理事 **Fredi Schmid**

日本語訳: 2008年7月21日 第1版